

TOKUDAI 川柳 入賞作品発表

テーマ:「学生生活の中の図書館」

最優秀賞

冬休み 本を借りずに 暖を借り

中村 由裕 (工学部1年)

椅子取りが

優秀賞

突如始まる 試験前

串 葵 (医学部2年)

借りた本

優秀賞

読めずに返す 虚しさよ

宮原 圭吾 (医学部3年)

気が付けば

優秀賞

みんな集まる 憩いの場

中尾 真理 (院・栄養)

入選

勉強中 隣の方は 夢の中

夏の夜の 花火の如し 我が記憶

積むだけで 読んだ気になる 試験前

西書庫に 溢れる知識 特大の (徳大の)

試験時期 人が集まる 英知の庫

「冬至」見て 図書館通い 書家の夢

本と本 すきまに君の 音がする

友想い 探した一冊 距離越えて

泉 宗一郎 (総合科学部1年)

秋山 晋一郎 (医学部3年)

佐々塚 涼弥 (医学部3年)

横田 大地 (工学部3年)

木内 結花 (工学部1年)

板東 正浩 (医学部4年)

林田 早紀 (総合科学部4年)

堀口 琢充 (工学部2年)

平成25年度読書週間行事「TOKUDAI川柳」表彰作品選考にあたって

今回新しい試みとして初めて「TOKUDAI川柳」を募集したところ、43点の応募があり、5人の審査委員により評価し、総合点の高い順に、同点者がいる場合は5人の審査委員で相談のうえ、上記のとおり選考しました。

応募作品はいずれも傑作前いで、甲乙つけがたい作品ばかりのため、審査委員はいろいろと悩まされたことでしたが、特に表彰が決定された作品について若干コメントしておきます。このコメントを参考にして、次回も多くの傑作をお寄せいただければと思います。

まず最優秀賞には「冬休み 本を借りずに 暖を借り」が選考されました。川柳は五・七・五の三句から成り、こっけい・風刺を主とした短い詩であることを考慮すると、この作品がやはり一番川柳らしいと高く評価されます。「暖を取る」ではなく、「本を借りずに」に合わせて「暖を借り」とした点がすばらしいと思います。

こっけい・風刺という点では、優秀賞の「椅子取りが 突如始まる 試験前」と「借りた本 読めずに返す 虚しさよ」もすばらしいと評価されます。前者は試験前になってドッと学生が大学図書館に押し寄せる現状を生き生きとイメージしていますし、後者は図書館に通った者なら誰もが一度は経験したことを簡潔に表現しています。「気が付けば みんな集まる 憩いの場」はこっけい・風刺という点ではやや弱いのですが、しかし、昔ながらの「堅苦しい図書館」ではなく、現在の開かれたラーニングコモンズとしての図書館を生き生きと表現している点で高く評価されます。現在の図書館は「憩いの場」であってもよいのです。気楽に図書館に通ってください。

入選作の中でこっけい・風刺という点で高く評価されるのは、「勉強中 隣の方は 夢の中」と「夏の夜の 花火の如し 我が記憶」そして「積むだけで 読んだ気になる 試験前」です。いずれも噴き出さずにはいられないほど、こっけいです。このような経験も長い人生から見れば、よくあることで、また経験すべき大切なことです。「西書庫に 溢れる知識 特大(徳大の)」と「試験時期 人が集まる 英知の庫」は徳島大学附属図書館の膨大な蔵書を褒め称えてくれるうれしい作品です。今後とも大いに利用していただきたいと思います。上記の「特大(徳大の)」ように、語呂合わせで審査委員を惹きつけた作品としては、「冬至」見て 図書館通い 書家の夢が挙げられます。「冬至」と「当時」「書家」と「書架」をかけています。当時、「将来の夢」として抱いていた書家への夢を、時を経て「冬至」となった図書館の書架の中できっかけをつかみ、努力を重ねて、是非、いつの日か実現していただきたいものです。最後に「本と本 すきまに君の 音がする」と「友想い 探した一冊 距離越えて」は、若い作者の淡い恋や友情に関する経験が、読む人の心にもそのような淡い恋や友情の経験を呼び起こします。個人的な恋あるいは友情の体験が普遍的なものとなっているところが高く評価されます。

以上のほかに、入選漏れの作品にもすばらしい作品がありましたが、入選枠に限りもあることから、惜しくも漏れてしまいました。またの機会に川柳を作って応募していただければ幸いです。

読書週間川柳選考委員会

表彰式のご案内

平成26年1月9日(木)
9時30分より

徳島大学附属図書館
多目的ホール(3F)

にて行います